

人権コラム 心、豊かに

◆ 不安に負けない心

新型コロナウイルスが世界中に蔓延し、日本国内でも感染が拡大する中、緊急事態宣言が発令され、外出自粛が要請されるなど、私たちの生活は大きく変わりました。緊急事態宣言解除後も、ソーシャルディスタンスの確保やテレワークの導入など新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」の実践が求められています。

その中で、インターネット上などで新型コロナウイルスに感染した人やその家族、濃厚接触の疑いがある人や医療従事者などが心無い誹謗中傷を受けてしまうといった、ウイルスとは別の被害が出ています。その他にも「新型コロナウイルスに感染しているかもしれない」と噂されて職場や地域の中で孤立してしまうといった問題もあるのです。

このような問題の背景には、目には見えないウイルスへの「恐怖」や、いつ終息するか分からないという「不安」があると考えられます。最悪の場合、死亡してしまうケースもある中で「自分や家族の命を守りたい」という思いから、つい攻撃的な言動をとってしまうことがあるのです。これは新型コロナウイルスに限った話ではありません。感染率が低く、治療方法などが解明されているハンセン病や、感染経路が限定され治療薬の開発によって発症を遅らせたり症状を緩和させたりすることが可能になったHIVであっても、病気への誤った認識から差別や偏見が残っているように、「感染するかもしれない」という不安感は時に人の心を攻撃的にしてしまいます。

しかし、不安を理由に感染した人やその家族などに何をしてもいいということにはなりません。むしろ、「もし自分が感染していたら自分や家族も誹謗中傷を受けてしまうかもしれない」と考えてしまい、症状が出て受診しない人が増えて、感染が拡大するという悪循環の原因を作ってしまう。こんなときだからこそ、部屋だけでなく心も換気して風通しを良くすることで、ウイルスだけでなく差別や偏見の感染も予防できるのではないのでしょうか。